

<平成 26 年度>

## 環境保全部の取り組み実績

環境総務課  
環境衛生課  
環境公害課  
淀川衛生事業所  
産業廃棄物指導課

### ■ 基本方針 ■

環境保全部では、「みんなでつくる、環境を守りはぐくむまち 枚方」をめざし、環境負荷の少ない持続可能な社会を実現するため、市民、事業者等と連携協力し、市民の身近な生活環境から地球環境保全に向けた取り組みまで、幅広い様々な施策を実施していきます。

平成 26 年度は、社会状況の変化や新たな課題に対応するため、環境影響評価制度の見直しを進めるとともに、空き家の適正管理対策について検討を進めます。

さらに、中核市移行に伴い、新たに実施する産業廃棄物に関する事務や浄化槽の適正管理の指導等について、適正かつ円滑に執行し、市民サービスの向上に努めます。

また、引き続き枚方市地球温暖化対策実行計画に基づき、再生可能エネルギーの利用拡大に向けた施策や、省エネルギー・省 CO<sub>2</sub> 活動を促進する施策に取り組みます。

### I 重点施策・事業

#### ◆環境影響評価制度の見直し

条例施行後 20 年が経過し、公害規制をはじめとした環境関連制度の充実や環境配慮の社会的浸透に加え、市街地の再開発や工場跡地の再整備の増加などの社会状況の変化が生じています。

条例の役割や意義を継承しつつ、現在の社会状況に見合った制度にするとともに、環境影響評価法、大阪府の条例との整合を図るため、平成 27 年度中の制度改正に向けて、環境影響評価制度の見直しに着手します。

#### 実績

- ・環境影響評価制度の見直しについて枚方市環境影響評価審査会に諮問し、対象事業の規模要件のあり方について中間答申を受けた。これに基づき、規則改正により、対象事業の規模要件を見直した。

#### ◆空き家の適正管理対策の検討

適正に管理されていない空き家が問題となる中、近隣の住環境などに及ぼす影響を踏まえ、その発生抑制や家屋の有効活用など、適正管理に向けた対策について検討を進め、平成 27 年度の条例化に向けて取り組みます。

#### 実績

- ・市内において空家対策制度の検討を進めるとともに、平成 26 年 11 月に成立した空家等対策の推進に関する特別措置法の運用及びその体制について検討を行った。

#### ◆淀川衛生工場し尿処理施設改造事業

下水道の普及により、し尿等の搬入量が減少する中、淀川衛生工場の処理方式については、現施設の改造による希釈放流方式とし、「なわて水みらいセンター」への平成 30 年度の放流に向けた必要な取り組みを進めます。

また、生活排水の適正処理を推進するため、汲み取りから公共下水道への接続促進についての啓発活動を行います。

#### 実績

- ・なわて水みらいセンターへの放流に向けた申請手続きを進めるとともに、大阪府住宅供給公社所有の淀川衛生事業所業務棟用地について、平成 29 年度の用地返還に向けた協議を行った。
- ・収集世帯に対し、下水道接続に向け、訪問及び文書による啓発を年 2 回行った。

#### ◆地球温暖化対策の推進

府補助金を活用し、26年度中に、サプリ村野と6つの小学校に太陽光発電設備と蓄電池を設置します。

また、再生可能エネルギーの利用拡大や家庭向けの省エネ対策として、引き続き、住宅用太陽光発電設備の設置補助を行います。

#### 実績

- ・第1次避難所に指定されているサプリ村野と小学校6か所（小倉、磯島、西牧野、蹉跎東、中宮北、西長尾）に、災害時にも活用できるよう太陽光発電設備10kWと蓄電池5kWhを設置し、再生可能エネルギーの導入拡大を図った。
- ・平成26年度の住宅用太陽光発電システムへの設置補助は、579件（2,527.25kW導入）であった。平成23年度からの4年間で1,930件の補助（8,108.85kW導入、約8メガワットに相当）となり、家庭部門における二酸化炭素排出量を削減するとともに、市民の省エネルギー行動に関する意識啓発を図った。



〈サプリ村野の太陽光発電設備〉

#### ◆中核市移行に伴う事務の執行及び環境監視体制の充実

中核市移行に伴って権限移譲を受けた産業廃棄物に関する事務、浄化槽に関する事務等について、職員の知識・技能の向上、関係機関との連携の強化等を図り円滑な執行に取り組みます。

さらに、市民の関心が高い微小粒子状物質（PM2.5）を適正に把握するため、王仁公園局及び中振局で測定を行い、速やかに情報を提供します。

#### 実績

- ・中核市移行に伴って移譲を受けた事務について、事業者等への指導、審査等を円滑に行った。また、産業廃棄物行政の府内担当者連絡会議に参加するなど、外部関係機関との連携の強化を図った。
- ・PM2.5などの市域の大気汚染状況の把握を継続し、適宜ホームページ等により市民へ情報提供を行った。

## II 行政改革・業務改善

### 〈行政改革実施プラン（前期）の改革課題〉

改革課題	取り組み内容・目標
26. し尿処理業務の効率化	公共下水道の整備により減少するし尿等を適正に処理するため、希釈放流方式への見直しを行う。 また、現施設の維持管理については、優先度を見極めながら効率的な維持管理に努める。

#### 実績

- ・現処理施設を生物処理方式から希釈放流方式へ移行するため、希釈放流に向けた申請手続きを進めた。
- ・現施設の維持管理については、希釈放流方式への移行後も使用することとなる機器類の整備を優先するなど、効率的な維持管理を行った。

改革課題	取り組み内容・目標
29. 外郭団体等における中期的な「経営プラン」の策定	NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議における中期的な「経営プラン」の策定に向け、26年度は、昨年度に試算した活動内容とそれに必要な人員や経費、それらに要する会費収入等をもとに協議を行い、経営プラン（案）の作成を支援していく。

#### 実績

- ・経営プランの策定に向けた検討や調整を行い、NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議において、中期的な「経営プラン（案）」を作成した。

改革課題	取り組み内容・目標
33. 技能労務職員等の配置基準の見直し	セーフティネットの確保及び業務の継続性、効率性の視点を踏まえて、引き続き適正な配置基準を検討する。

#### 実績

- ・将来の職員配置基準の見直しに向け、技能労務職のあり方について、集約に向けた取り組みを行った。

#### <事務事業総点検に係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
まち美化啓発事業	ポイ捨て防止及び路上喫煙の制限について、市ホームページ、広報紙等による啓発を継続するとともに、駅前キャンペーンの取り組みが広く市民に周知されるよう、効果的、効率的な実施方法を検討し、取り組みを行う。

#### 実績

- ・街頭啓発キャンペーンを市内5駅周辺で計27回実施するとともに、広報・エフエムひらかた等でのスポット放送を行った。また、「犬のふん放置禁止」「ポイ捨て禁止」の啓発看板を希望する個人・自治会等へ698枚を配布するほか、路上喫煙禁止区域の周知を行うなど、効果的、効率的に啓発を実施した。
- ・「第4次枚方市まち美化計画」（平成27年度～平成30年度）を策定した。

#### <業務改善運動のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
新たな職員提案制度と業務改善制度への積極的な参加	実現性の高い施策につながる提案ができるよう、新たな職員提案制度に組織的に取り組むとともに、各課において業務改善の提案を募り、決定した内容を積極的に実践する。

#### 実績

- ・各課において業務改善の提案を募り、課の共有ドライブの運用方法のルール化による業務効率化などに取り組んだ。
- ・平成26年度業務改善事例として2件を推薦したほか、4件について報告し、「業務マニュアルの作成による知識・技術の継承」について表彰を受けた。

テーマ	取り組み内容・目標
知識・技術継承のための業務マニュアルの作成	環境監視や規制指導業務等にあたり、これまで培われてきた専門的な知識や技術の継承のため、経験に頼るのではなく、業務マニュアルの作成等により、効率的、効果的に業務を実施する体制づくりを進める。
<b>実績</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウが必要となる業務について、所属の職員が効率的に業務の流れを把握、遂行できるよう、散在していた情報や知識を集約し、2件の業務マニュアルを作成した。また、課内研修などで人材育成に活用した。</li> <li>・平成26年度業務改善制度の改善事例として推薦し、表彰された。</li> </ul>	

テーマ	取り組み内容・目標
危機管理体制の充実	風水害及び地震災害を想定した訓練の実施と、地域防災計画の改訂に連動した部内マニュアルの見直しに取り組むとともに、職員の災害対応にかかるスキルアップを図る。
<b>実績</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分室及び淀川衛生事業所において災害対応訓練を実施するとともに、水害を想定した消毒対応研修及び消毒液手動噴霧器取扱研修を実施し、職員の災害対応にかかるスキルアップを図った。</li> <li>・地域防災計画の改訂に対応した部内危機管理マニュアルの見直しに取り組んだ。</li> </ul>	

### Ⅲ 予算編成・執行

- ◆府補助金を活用し、26年度中にサプリ村野と6つの小学校に太陽光発電設備と蓄電池を設置します。また、さらなる市施設への太陽光発電設備の設置に向け、国・府の補助金の動向を注視し、その活用をめざします。

#### 実績

- ・大阪府再生可能エネルギー等導入推進基金事業に基づく市町村補助金を活用し、サプリ村野と小学校6か所（小倉、磯島、西牧野、蹉跎東、中宮北、西長尾）に太陽光発電設備10kWと蓄電池5kWhを導入した。

- ◆大型太陽光発電設備「枚方ソラパ」の売電収益として、26年度は700万円程度を見込んでいます。

#### 実績

- ・枚方ソラパの売電収入は、約2,981万円で、リース料を差し引いて約876万円の収益を得た。

### Ⅳ 組織運営・人材育成

- ◆定期的な部内会議により、部の運営方針に基づく組織目標の達成に向けた情報共有とスケジュール管理を行います。

#### 実績

- ・毎月の部内会議において各項目の進行管理を行うとともに、目標達成に向けた部内調整を行った。

- ◆中核市移行で移譲を受けた事務について、専門的な知識が必要とされる事務が多いことから、事務の引継ぎや研修の内容を共有することにより、知識の向上を図ります。

#### 実績

- ・各会議や研修に参加し、専門的知識について共有化を図るため勉強会や報告会を実施することで、職員の知識・技能の向上を図った。



◆研修の実施や職員相互の学習を通して、新たなノウハウを蓄積しつつ、職員の業務執行能力の向上を図ります。また、日常業務における教育訓練にとどまらず、朝礼やミーティングの場を活用することにより、互いに学び合う職場風土を築きます。

#### 実績

- ・部内で普通救命講習や接遇研修等の各種研修を実施し、職員の業務執行能力の向上を図るとともに、各課においては朝礼等の場を活用し、職務に関する情報共有を行った。

◆公用車の運転業務に従事する職員が多いため、継続的な研修を実施し、事故防止とエコドライブを定着させます。

#### 実績

- ・積極的に安全運転講習やエコドライブ講習、無事故・無違反チャレンジコンテストに参加し、運転者及び同乗者の安全運転に対する意識向上を図った。

## V 広報・情報発信

◆大型太陽光発電設備「枚方ソラパ」を活用した情報発信として、引き続き、市ホームページにおける発電状況の周知や一般見学会の開催、小学校等の見学の受け入れなどを行います。

#### 実績

- ・「枚方ソラパ」について、市ホームページ等で発電状況やCO<sub>2</sub>削減量などを周知した。
- ・平成26年度の年間発電量は、一般家庭約190世帯分の年間消費電力量に相当する690,245kWhとなった。
- ・市民や伊加賀小学校児童（4年生全クラス）を対象とする見学会を開催するとともに、各種団体等を対象とする見学会を合計12回開催した。（見学者264人）

◆サブリ村野の「環境情報コーナー」が市民の身近なものとなるよう、様々な機会を通じてPRします。また、NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議と協力し、省エネナビの貸出しやエコドライブシミュレーターの利用などにより、広く市民に省CO<sub>2</sub>活動や市の環境保全活動をPRします。

#### 実績

- ・環境ミニ講座を開催（9回、参加者181人）し、エコドライブシミュレーター（利用者300人）を設置するとともに、省エネナビの貸し出し（11人）を行った。

◆市ホームページなどを活用し、微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）をはじめとした、市民の関心が高い環境関連情報の速やかな発信に努めます。

#### 実績

- ・PM<sub>2.5</sub>情報をホームページや広報、FMラジオ等により広く市民へ情報提供した。
- ・PM<sub>2.5</sub>等の大気の様子や市内の河川の状況についてのパネルを作成し、環境情報コーナーに設置するなど、市民の関心の高い環境関連情報について、わかりやすい発信に努めた。

◆市内の事業者116社が会員となっている地球温暖化対策協議会において、メールマガジンなどを通じ、温暖化対策への協力やセミナーやイベントへの参加などを呼びかけます。

#### 実績

- ・地球温暖化対策協議会において、温暖化対策への協力や、省エネセミナーや打ち水イベントなどへの参加を呼びかけ、延べ773事業者の参加があった。
- ・くずはモールのグランドアトリウムで温暖化対策協議会主催の省エネイベント「環境広場」を実施し、省エネ相談や協議会会員の活動の紹介を行った。（参加者1,311人）

- ◆「キャンドルの夕べ」や「クリーンリバー」などの市民と連携したイベント等の実施、自然観察会や講演会など市民参加の行事を行うことにより、効果的な啓発活動を行います。

#### 実績

- ・「ひらかたキャンドルの夕べ 2014」を 131 人のボランティアと連携し開催したほか、自然観察会として、「水辺の楽校」(参加者 70 人)、「セミの抜け殻調査と自然工作」(参加者 21 人)、「夏の昆虫教室」(参加者 51 人)、「秋の自然工作」(参加者 22 人)を実施するとともに、自然保護をテーマに講演会(参加者 78 人)を開催した。
- ・「クリーンリバー船橋川」(参加者 650 人)、「クリーンリバー穂谷川」(参加者 69 人)など、市民等のボランティアによる清掃活動を行った。